

また、射幸性を抑制し、ライトファンを対象に遊技そのものの楽しさを提供する業態へと転換するに伴い、貯玉・再プレー・システムの活用も見直されています。

実際、貯玉数が増加しているとも聞いています。ここで気になるのは、貯玉・再プレー・システムの採用と併せ、その情報の適正な管理のための措置が講じられていましたか、また、記録されている遊技球等の数量に対応する賞品の提供や遊技球等の提供が保証される措置が講じられていますか等の点です。今一度、この点についてもご確認していただければと思います。

### (7) のめり込み問題

ぱちんこ遊技人口はかつて3000万人、今でも1700万人と言われます。その遊び方も距離感も、人によって異なると思いますが、そこまで吸引力があるのが事実です。

去る8月19日にリカバリーサポート・ネットワーク主催の「ぱちんこ依存問題を考えるフォーラム」が開催され、出席しました。リカバリー・サポート・ネットワークは、全日遊連の支援によって昨年設立された、ぱちんこ依存問題の相談機関です。同フォーラムでは、ギャンブル依存からの回復入所施設であるワンデーポートを利用する／かつて利用していた若者からの体験談の発表がありました。その中で、若者は、高校時代からぱちんこを始め、はまり、やりたくて仕方ないとの一心から、親の金に手を出す、サラ金から借金する、万引き・ひつたくりといつた犯罪に手を染めるなどしたという

このほかのめり込み問題の態様としては、借金で家庭崩壊、殺人までに発展する、また駐車場内の児童放置事案等というものもあります。

平成15年に全日遊連が実施した調査で

は、「自らをパチンコ依存症だと思ったことがある人」がユーチャーの3割を占めているという結果があります。勿論、この「依存症」というのは、定義が必ずしも明確でなく、その数値も額面通りには受け取れませんが、そういう危険性を感じいる人が多いのは確かです。のめり込むのは、学生・フリーター等だけでなく、背広を着た普通のサラリーマンもいます。男性だけでなく女性もいます。また、フォーラムの参加者では、親族らしき方が真剣に聞かれていたのが印象的でした。

業界では、車内放置事案対策として、子供連れの客の入場お断り、店内放送による注意喚起、ホール駐車場の巡回等を実施しており、現在までのところ、今年に入つてからぱちんこ店駐車場内での車内放置致死事案の発生は聞きません。業界の努力を感じます。

こうした問題は、客個人がコントロールすべき問題であるという考え方もあります。実際、同じ娯楽に興じても、問題に至らない人の方が多いのが事実でしょう。しかし、誰の問題云々という次元ではなく、ぱちんこ営業には、客に楽しさを与えることができる反面、人を不幸にする／社会的な問題さえも引き起こしかねない危険な部分も併せ持つていてそれを認識し、営業者として、それを取り除く努力をしながらマネージしていくことが大切と考えます。またこのことは、業界

への理解、社会的評価を得るという観点からも非常に重要なことだと思います。

## 3 最後に

業界の健全化に向けた取組みを進める上では、今後より一層、業界として一体となった取組みが重要となってくると思われます。業界一体というのは、ホール、メーカー、販社等の団体の横の連携ということもほか、ホール団体とその加盟業者という点を含めた縦横で一体となつた取組みが必要ということです。現在、様々な枠組みで業界関係団体が集まり、真剣に議論をし、そうした議論を通じて、相互に理解し、あるべき姿を追求しています。いずれも厳しい局面に立つた上で、の議論ですが、着実に前進しています。しかし、最終的にこれらの努力を評価するのは、業界とは関係のない一般の方々であり、その点、一部の心ない者の逸脱行為がこうした業界全体の努力・社会的評価を減殺させる面があるのも事実です。このような大きな業界で、こうした努力を社会の評価に結実させることは、並大抵のことではありません。どうか、こうした努力が、団体幹部によるものだけにとどまらず、具体的な成果として、全国各地のぱちんこ店から各地域の人達の目に届く形になるよう、業界全体に浸透し、確実に実践されることを期待していますし、またそうした中で、今後とも、貴団体からの業界健全化のための前向きな意見、相談等をお待ちしています。